

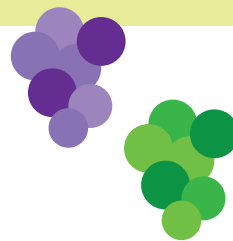
金沢大学

能登未来社会SDGs研究部門

2024年度 成果報告



能登未来社会 SDGs 研究部門は 能登ならではの特色ある 未来社会モデルの構築に挑戦します。



Mission

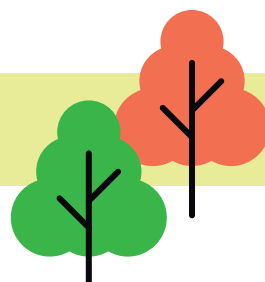
「能登未来社会 SDGs 研究部門」は、石川県珠洲市からの寄附を受け、金沢大学先端科学・社会共創推進機構に設置されている寄附研究部門です。

「能登里山里海研究部門(2014～2018)」および「能登里山里海 SDGs 研究部門(2019～2021)」の成果・実績をもとに、持続可能な開発目標(SDGs)の柱である「環境保全」「経済成長」「社会的包摂性」が調和した、能登ならではの特色ある未来社会モデルの構築に挑戦します。

そのため、本研究部門では世界農業遺産(GIAHS)にも認定されている「能登の里山里海」という稀有な地域資源を基盤として、具体的な実践(アクション)を重視した3つの研究プロジェクトを設定しています。

- ① 地域活性化に貢献する人材育成プログラムの実証的研究開発(Capacity Building)
- ② 里山里海を中心とした生物多様性・文化多様性に関する研究(Biocultural Diversity)
- ③ 地域特有の資源を活用した社会的な持続可能性に関する研究(Social and Economic Sustainability)

これらの研究を相互に関連づけながら、地域の公的機関や企業・事業主の皆様、国内各地の教育・研究機関の皆様とともに、実践的・実証的な研究に取り組んでまいります。



2024年度報告にあたり

令和6年能登半島地震と令和6年奥能登豪雨の災害により能登は甚大な被害を受け、未だ厳しい生活環境が続くなか、無事に本報告書が作成できたことは、珠洲市をはじめとする各行政機関、地域住民の方、関係諸機関の皆様の多大なるご理解とご協力によるものであり、改めて感謝申し上げます。

大規模な災害が度重なるなかで、大学としていかなる役割を果たすべきか逡巡する年度となりましたが、復旧フェーズにおける短期的な視点による活動と同時に、創造的復興に向けた中長期的な視座を複眼的に捉えることがアカデミアとしての使命と捉え、2024年度は研究、教育、社会貢献のバランスをこれまで以上に重視して活動してまいりました。

2007年度よりこれまで培ってきた能登学舎での叡智と人的ネットワークを最大限発揮し、18年目となる本年度の活動が今後の能登復興の一助となることを願っております。そして、今後も金沢大学能登学舎が地域社会の一員として、スタッフ一同、更なる社会貢献に尽力する所存です。



○能登未来社会 SDGs 研究部門

総括 篠田 隆行

学長補佐(地域共創担当)

先端科学・社会共創推進機構 教授

実施体制

○研究プロジェクト総括

篠田隆行(教授)

○能登学舎スタッフ

中村華子(特任准教授)(2024年9月1日より)

山下修平(特任准教授)(2024年11月1日より)

小林秀輝(特任助教)(2024年9月30日まで)

須田暁憲(連携研究員・能登里山里海SDGsマイスター2021年度修了)

恩田健帥(連携研究員・能登里山里海SDGsマイスター2022年度・2024年度修了)

○活動記録サポートスタッフ

石積 優(能登里山里海マイスター2012年度修了)

松田咲香(能登里山里海マイスター2017年度修了)



報告内容(目次)

Report 1

人材育成プログラム(リカレント教育) 04

Report 2

地域における初等中等教育支援・高等教育拠点活動 14

Report 3

社会貢献活動 16

Report 4

研究活動 17

【資料】

業績・活動一覧 18



人材育成プログラム(リカレント教育)

能登里山里海SDGsマイスタープログラム 2024年度(第18期)

「能登里山里海SDGs
マイスタープログラム」の
詳細はこちら→



1-1 実施概要

2024年6月から2025年3月までの10か月、里山里海の価値を活かして地域課題に取り組む人材、および自然と共生する新たな「能登モデル」を発信する人材の育成を目的とするリカレント教育「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」を実施しました。2007年度に開始した前身のプログラムから第18期目を迎えます。

カリキュラムの編成にあたっては、2022年度からの新フェーズの方向性として設定したコンセプト『より「深く」探求！×より「広く」活動！』およびこれを達成するための強化策(地域の現場を強く意識した受講コース・科目の設定、金沢大学生が能登に出向く機会の増加)を継続しました。

そのうえで、今年度は令和6年1月に発生した能登半島地震をふまえ、実践的な演習科目等について再構築を図りました。検討にあたっては、従前の里山里海関連の基礎・共通科目を含む基幹コンテンツを可能な限り維持しつつ、喫緊の復旧・復興に寄与する、なおかつ域内外からの多くの支援者の受講ニーズを吸収できる狙いを持って新たなモデルを開発しました。

具体的には、他の被災地が蓄積してきた「復興に取り組んだ経験」を共有したうえで、地域の経済・コミュニティを維持していくとともに地域の一人ひとりの安心とエンパワーメントにつなげるための関係人口の創出、創業、起業、および移住につながるような「アート(芸術)を起点として思考し展開できる復興」をテーマとするゼミナール形式を導入しました。併せて、オンラインでも受講可能なハイブリッド方式としました。

発災直後の厳しい状況下にも関わらず、プログラムを再構築し開講から修了まで至ることができたのは、多くの外部関係者および地域の人々のご理解・ご協力・ご支援、本プログラムの実績に対する信頼と期待、そして珠洲市が2017年より開催してきた奥能登国際芸術祭による文化・芸術の蓄積によるものです。皆様のご尽力とご支援により、世代・職業・居住地のいずれも多様なバックグラウンドを持った21名(前年度比12名増)の社会人が全課程を修了し、「能登里山里海SDGsマイスター」に認定されました。

1-2 カリキュラム

多彩な主体による生業創出(ケーススタディ)

7月13日、多様な分野から経験豊富な講師陣を招へいし、地域に密着した起業や事業展開のためのノウハウを共有しました。



瀬川しのぶ講師



ディスカッション



授業での質疑応答

独立行政法人国際協力機構(JICA)能登デスク
フードコーディネーター
能登町定住促進協議会・移住コーディネーター
観光・環境・福祉マルチワーカー
珠洲市特定地域づくり事業協同組合
都市計画コンサルタント

中谷 なほ氏(石川県珠洲市、2010年度マイスター修了)
瀬川しのぶ氏(石川県輪島市、2017年度マイスター修了)
森 進之介氏(石川県能登町、2018年度マイスター修了)
高澤 千絵氏(石川県志賀町、2019年度マイスター修了)
馬場 千遥氏(石川県珠洲市、2019年度マイスター修了)
須田 暁恵氏(石川県金沢市、2021年度マイスター修了)

2024年度 能登里山里海SDGsマイスタープログラムカリキュラム

日付	内容	テーマ	講師等
6/15	入講式・講義	市政の概要、地域金融機関の取組から能登の実状を理解する	泉谷満寿裕珠洲市長、田代克弘理事長（興能信用金庫）、和田隆志金沢大学学長
6/29	講義・WS	これまでの能登の里山里海について学ぶ	石川県庁・里山振興室課長、菊地直樹氏（金沢大学）、岸岡智也（弘前大）、小山明子氏（国連大学）
7/13	講義・WS	能登の生業の状況を知る マイスター修了生との交流	平山晴浩氏、馬場千遥氏、中谷なほ氏、須田暁憲氏、寺下航氏、瀬川しのぶ氏、森進之介氏、高澤千絵氏
7/27	講義・WS	災害と復興まちづくりについて 今後の能登復興に向けて考える	石川県能登半島地震復旧・復興推進部創造的復興推進課・杉本拓哉氏、UR都市機構災害対応支援部・天野昇氏・山田敬右氏、熊本大学・田中尚人氏
8/10	FW・講義	奥能登フィールドワーク（現状を把握する）	石川県里山振興室（中能登町春木地区）、多田健太郎氏、吉田一翔氏
8/24	FW・講義	奥能登フィールドワーク（現状を把握する）	「能登瓦・古材再生プロジェクト」協力、飯田高校との連携
9/7、21	ゼミ活動	地域とアート （アートを通じ、復興に向けた取組の実践）	東京藝術大学・伊藤達矢氏、東京藝術大学・田中一平氏、山本基氏、菊谷達史氏、中島大河氏 ※10/5のみ 東京藝術大学学長・日比野克彦氏
10/5、19			
11/9			
課題レポートの作成			
12/7	能登の里山里海学会2024		
12/21	WS・講義	・これまでのプログラムから学んだこと① ・これからの地域経営	篠田隆行（金沢大学）
1/11	WS・講義	・これまでのプログラムから学んだこと② ・生き物の地図から地域性を考える ・復興から始まる幸福協創経済社会システム	中村華子（金沢大学）、山下修平（同）
1/25	WS・講義	・これまでのプログラムから学んだこと③ ・ビジネスワークショップ	平美由記氏、石塚愛子氏、浅田章大氏
2/8、22	WS	リハーサル 成果発表会	
3/1	修了式		

※講義・WSはすべてハイブリット形式



1-3 トピックス

① 基調講演

入講式につづき、泉谷満寿裕珠州市長、田代克弘興能信用金庫理事長、および和田隆志金沢大学学長のトップマネジメント三者より、それぞれの立場から能登の創造的復興に向けた取り組みと、受講生および当プログラムへの大きな期待が述べられました。



珠州市 泉谷満寿裕市長



興能信用金庫 田代克弘理事長



金沢大学 和田隆志学長

② 演習科目「地域とアート ～アートを通じた復興への取り組み」

受講生が5～6名ずつの四グループに分かれ、約4か月間に渡りゼミナール形式による実践科目（通称：アートゼミ）を履修しました。各分野で活躍するアーティスト、山本基氏（インスタレーション）、菊谷達史氏（絵画、アニメーション）、中島大河氏（陶芸）、伊藤達矢氏（東京藝術大学 社会連携センター教授）および田中一平氏（東京藝術大学 共創拠点推進機構 特任講師）を講師に招き、「アート」が持つ人間・社会・文化・教育・福祉に与える多面的かつ奥深い効用を理解・体感し、能登地域での実践・還元を構想する貴重な機会となりました。

【山本基ゼミ】

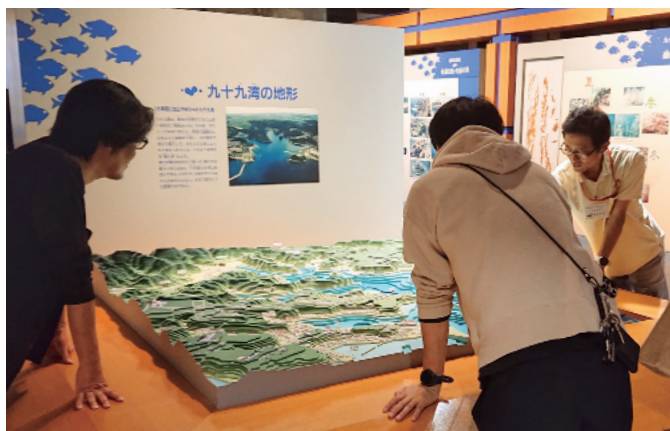
奥能登国際芸術祭の作品「記憶の回廊」に込められた意味、地震で倒壊した作品が被災地にとって持つ意味を、作品と同じ能登の塩を使ったアクセサリ作りをととして来場者とともに想いを巡らせました。



山本基氏が奥能登国際芸術祭2020+、2023に出展した作品「記憶の回廊」がある旧小泊保育所で開催した“1DAY OPEN MUSEUM”

【菊谷達史ゼミ】

将来的にアニメーションを制作する意図を持って、珠洲と周辺各地をテーマを設定して見学し「話を聞く」活動を展開し（ロケーション・ハンティング、シナリオ・ハンティング）、「2024年の能登、珠洲」を見つめ自分に出来ることを明確化しました。



のと海洋ふれあいセンター（能登町）で海を知る



人と馬が共生する森の放牧場、珠洲ホースパークでの交流

【中島大河ゼミ】

珠洲、地方、能登、被災地とは何かを自分の視点でインスタントカメラで撮影し、感じた思い、いま必要なことは何か、手作りの地図に写真を展示し地域の人々と語り合いました。



地図と写真を組み合わせることで新たな視点と交流が生まれました



【伊藤達矢ゼミ】

様々なアートに触れ活動に参加することで人々の意欲、幸福感、健康状態の回復や予防につながることを学び、経験豊富な多くのアーティストおよび被災した人々とともにワークショップを行いました。



伊藤達矢教授による授業



ワークショップ“ハートマークビューイング”

PICK UP !

西海一紗氏が、4つのアートゼミ活動の軌跡を撮影・記録したショートフィルムを制作し、能登里山里海学会（後述）で上映しました。美しい映像に彩られた印象的なドキュメンタリー作品となっています。



西海 一紗 プロフィール

北海道出身。明治学院大学芸術学科映像芸術学コース卒業。
東京の映像制作会社に務めたのち、2022年に珠洲市に移住。奥能登国際芸術祭の広報・記録係を担当。
芸術祭で繋がった縁を珠洲の復興に繋げる「ヤッサープロジェクト」の一員として活動する傍ら映像や写真で珠洲の記録活動を行っている。

アートゼミの軌跡 ～ドキュメンタリー映像



『アートゼミで活動する皆さんを映像で撮影し、編集時にその映像をじっくり何度も繰り返し見ていると、撮影している時にはあまり気が付きませんでした。みなさんが「戸惑っている」ということがひしひしと伝わってきました。

大震災から1年経たずのこの場所で、アートという文脈から何かアクションを起こすということはとても難しく、非常に繊細な問題と向き合わなければなりません。私も奥能登国際芸術祭の活動に関わっている身として同じ悩みを抱えていましたから、とても共感する部分がありましたし、悩んでいるのは私だけじゃないんだと思うことができてほっとしたことを覚えています。
被災した土地とどう関わりを持つか、取っ掛かりを掴むのはとても難しいことですが、この時期の能登に通う口実を与えたということそのものにマイスタープログラムの意味があったのではないのでしょうか。』

STAFF REPORT

受講生の修了レポートに見る“アートとは〇〇である”

受講生が「アートを通じた復興の可能性」を学んだ意義は小さくありませんでした。

何人かの受講生は、修了レポートの中で“アート”を次のように定義しています。

来訪者と地域住民の交流が生まれ
交流人口の源泉となる

孤独や孤立を癒す

記憶を残せる

地域の共生を体現する

“表現したもの”だけでなく“共有されるもの”

アートとは
〇〇である

みなで作り上げる楽しみにこそ
生きる喜びがある

人々の感性を育み、人々の参加を
もたらす、包容力と広がりをもつ

“巡る”こと

試行錯誤を重ねられる場

みんなが一つになれるきっかけ

変幻自在に様々な人々をつなげる

支え合いや協力を生み災害支援において
より強いコミュニティを作る

NEWS FLASH

アートの力“つながり”で生まれる人と人の“輪(和)”の広がり

①「明後日朝顔プロジェクト」

6月15日の入講式後、東京藝術大学・日比野克彦学長、金沢21世紀美術館の木村氏らをお招きし、「明後日朝顔プロジェクト」の苗植えを行いました。「明後日朝顔プロジェクト」は2003年に始まり、収穫した朝顔の種を各地に運び収穫できた種をさらに全国へと運び広げていく活動です。珠洲市内の金沢大学能登学舎、珠洲市役所、飯田高校、スズヅカの4か所で住民の皆さんと力を合わせて朝顔を植えて、栽培しました。スズヅカでは仮設住宅が建設されるなか、また、飯田高校では高校生が育てました。朝顔の成長が、住民のみなさんの表情を少しだけ明るくしてくれたように感じました。



スズヅカ(旧飯塚保育所)にて



金沢大学能登学舎にて



②能登のために活動するグループ「のとびら」との協働

「のとびら」は、ケアとアートを学ぶ東京藝術大学の履修証明プログラム「DOOR プロジェクト (Diversity on the Arts)」を修了した有志が結成した、能登に思いを寄せる有志グループで、東京、横浜、神戸、能登(珠洲市)に在住するメンバーで構成されています。前述した演習科目の伊藤達矢教授のもとでゼミの実践活動へ参画しました。

12月14日、メンバーで珠洲市社会福祉協議会(珠洲ささえ愛センター)に勤務する山形優子氏と、当マイスタープログラム受講生、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン鈴木祥代さんが、山形氏の住む珠洲市三崎町第二仮設集会所にて“ハートマークビューイング”というワークショップを実施しました。

ハートマークビューイングとは、アーティストの日比野克彦氏の呼びかけで始まり、被災した人の生活空間を心温まる空間にしたという想いと、全国各地の人々が心に抱く「何かできないか」という想いをハートのアート作品を布を縫い合わせて作ることで形にするプロジェクトです。これまで東日本大震災や熊本地震をはじめ、各地で展開されています。今回は、7人の方が仮設住宅だけでなくご自宅の方も参加して生活の状況や何気ない会話を楽しむ時間となりました。受講生の鈴木さんにとってこの経験がアートが持つ新しい力を発見する機会となりました。



ワークショップ“ハートマークビューイング”

③ 受講生同士のコラボレーションによる企画・事業

珠洲市内に活動拠点を置いて避難所、仮設住宅の支援、戸別訪問などを行う支援活動をしている特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの看護師、受講生の木下真由香さんと、NTT西日本北陸支店で復興支援チームの受講生、鎧塚典子さんが、避難所や集会所などで利用でき、簡単な操作で運動や脳トレが気軽に楽しめるモーション・トレーニングシステム「TANO」を導入しました。能登学舎は1月の地震以降しばらくの間、避難所として使用されていました。5月には校庭に仮設住宅が作られました。

ピースウィンズ・ジャパンは能登学舎内のサロンルームで定期的にお茶会を開催しており、避難者の心身の健康などウェルビーイングの向上のために「TANO」を活用することを企画・提案し、実現しました。画面の前で動くと、スポーツやウォーキングなど体を動かしながらゲーム感覚で楽しむことができ、理学療法士も加わりながら健康維持につながっています。このように受講生同士のコラボレーションにより生まれた活動は、地域の他の避難所へも広がりを見せています。



TANOでの体操の様子(写真提供:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン)



④ NPO 法人能登里山里海マイスターネットワークへのサポート

2020年に設立された特定非営利活動法人能登里山里海マイスターネットワークは、マイスタープログラム修了生有志を中心に結成したNPO法人です。世界農業遺産「能登の里山里海」の保全及び地域資源の利活用、伝統文化や里山里海に関する知恵の次世代への継承に向けた調査研究、人材育成、地域コミュニティの維持活動等の取り組みを推進するとともに、これらの取り組みに参加する者の交流・連携を強化し、もって持続可能な里山・里海の構築と地域社会の発展に寄与することを目的としています。

最近の主な活動としては、「能登の里山里海×高校生 未来の仕事プロジェクト」(令和元年度～)、「修了生同士の交流促進、マイスタープログラム 現役生との接点づくり」、「能登の生物多様性モニタリング いきものプラス」(令和3年度～)などがあります。「能登の里山里海×高校生 未来の仕事プロジェクト」は、NPO 会員が講師となって能登の仕事と地域の魅力に触れる授業を開催し、高校生たちの故郷での学びを支援する活動です。これまでの高校生たちの体験を、冊子や映像にして公開してきました。

マイスター講義や実習などでの連携や交流のほか、里山里海学会での活動紹介など、様々な活動で協力しています。

能登里山里海マイスターネットワーク

金沢大学のマイスタープログラム終了生が志を高く心に感通したNPO法として

〔法人の目的〕
市民の主体的な活動のため、世界遺産「能登の里山里海」の保全と地域経済の活性化を図る。伝統文化や山里海に関連する歴史や文化の継承を通じて市民意識、人材育成、地域コミュニティの活性化と自然の恵みと観光を推進することにより、これらの取り組みに参画する者の交流と関係性を高め、もって持続可能な山里・里海の保全と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

〔法人の事業〕
・山里海関係の保全、活動に関する調査研究
・山里海関係、OHA、SDGとテーマとした講座等
・地域経済を活性化し生活者の発展、観光
・地域産物人材交流、国際交流 など

〔法人設立〕 2020年4月 ※第8回SDG2019年10月9日開催
(会費制) 正会員 47円、賛助会員 14円 161名
(令和元年6月29日現在)

役員一覧 (2024年12月現在)			
役職	氏名	年齢	学年年度
理事長	中村 隆	58歳	能登里山1期
副理事長	佐藤 隆二	58歳	能登里山スタッフ
常務理事	二見 浩典	50歳	能登里山5期
理事	村上 隆	57歳	能登里山1期
理事	田村 隆三	53歳	能登里山1期
理事	高野 千絵	50歳	能登里山SDG12期
理事	上田 隆	50歳	能登里山SDG2022年度生
理事	細田 隆	50歳	能登里山SDG2022年度生
理事	大野 長一	52歳	能登里山SDG16期
理事	坂田 隆	50歳	能登里山5期
監事	坂田 隆	50歳	能登里山SDG2021年度生

(監事職) info@denryouri-net.or.jpにてお問い合わせ。



「能登里山里海マイスターネットワーク」
は、金沢大学「能登里山里海マイスタープログラム」の卒業生が中心となり、
金沢大学と連携して活動しています。

■ネットワークの最近の主な活動

「能登の里山里海・高校生 未来の仕事プロジェクト」
(令和元年夏～)

報告の作成と発表の機会に
対し、高校生の活動意欲を
高めることができました。

8月までのべ20人以上のマイスターが
講師として参加する一大プロジェクトに
取り組んでいます。

能登の里山里海マイスターネットワークの
活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

高校生たちの
活動を紹介します。

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

「能登の生物多様性モニタリングいもものバス」

(令和元年春～)

能登の里山里海マイスターネットワークの
活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

能登の里山里海マイスターネットワークの
活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

修了生間士の交流促進、修了生生活か、 マイスタープログラム関係生との接点づくり

マイスタープログラム
修了生連絡会(部)

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

マイスタープログラム
入会式、修了式での交流
促進の里山里海マイスター
関係生との接点づくり

そのほか

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

能登の里山里海マイスターネットワーク
の活動の様子をQRコードで
ご確認ください。

■マイスタープログラム関係生、修了生生活か、 能登にこの期間としていた生活の提供、 入会、寄付をお願いします

会費(年会費3000円)、賛助会員募集中!

毎月10日までに「能登の里山里海マイスターネットワーク」に寄付をお願いします。

(小倉) 2024年10月10日

会費(年会費3000円)、賛助会員募集中!

毎月10日までに「能登の里山里海マイスターネットワーク」に寄付をお願いします。

(小倉) 2024年10月10日

会費(年会費3000円)、賛助会員募集中!

毎月10日までに「能登の里山里海マイスターネットワーク」に寄付をお願いします。

(小倉) 2024年10月10日

⑤ 能登の里山里海学会2024

金沢大学能登学会（珠洲市三崎町）では、大学（研究機関）と地域が連携した全国でもユニークな取り組みとして、社会人向け人材育成プログラム「能登里山里海 SDGs マスタープログラム」をはじめ、プログラム修了生や能登地域での事業・活動のサポートと連携した研究活動を行っています。

マスター受講生・修了生、地域の方々、里山里海保全に興味のある学生、里山里海をフィールドにする研究者が集まり、日ごろの研究や活動を発信し、互いに情報交換する場として「能登の里山里海学会2024」を開催します！

講演会

- 珠洲市からのごあいさつ
- 金沢大学の取り組み紹介
- マスタープログラム2024アートゼミ報告
 - 1：菊谷達史＋ゼミ生
 - 2：山本 基＋ゼミ生
 - 3：伊藤達矢＋ゼミ生
 - 4：中島大河＋ゼミ生
 - 5：東京藝術大学・のとり＋ハートマークビューイング
- アートゼミを振り返って
- 2024アートゼミ 映像記録

入場無料
ラポートすず
(大ホール)
(珠洲市飯田町1-1-8)

2024 12.7
10:00～12:20

KANAZAWA UNIVERSITY

今期受講生、前期までの修了生、地域の方々、里山里海保全に興味のある学生、および里山里海をフィールドとする多種多様な専門を有する研究者・実務者・起業家等が集まり、日ごろの研究・活動・事業を発信し情報交換や交流する場として「能登の里山里海学会2024」および「能登の里山里海ワークショップ&マルシェ」を開催しました。今年度は、災害からの復興に向かって共に歩む多くの人々が集う場となりました（詳細は左図プログラムとP12・13参照）。



開会



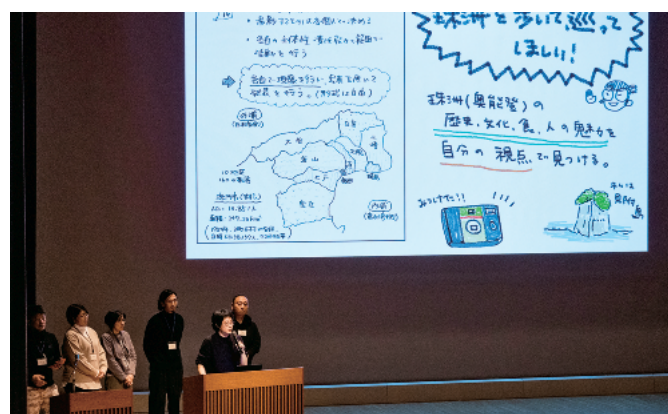
金沢大学 篠田隆行教授



菊谷達史ゼミ



珠洲市企画財政課 山口茂樹課長



中島大河ゼミ

能登の里山里海 ワークショップ&マルシェ



里山里海ワークショップ

- 家安祐美：アテ（能登ヒバ）を使ったスワッグ（かけ飾り）を作ろう
- 桶間佳奈：能登のハーブを使ってマイ・フレグランスを作ろう
- 三輪福：真菰（まこも）でお飾りを作ろう
- 仁愛女子高校（1）：お話し+手作り体験 ～手作りキャンドルで愛をつなぐ
- 仁愛女子高校（2）：お話し+能登でできること・研究活動ポスター発表
- 東京藝術大学+のびら：ハートマークビューイング タペストリーお披露目+お話し
- 山本基生：塩の結晶でアクセサリ作り体験+お話し
- 中島大河：2024年～今とこれから
- トークセッション：能登/珠洲について語り合おう！
- マイスターネットワーク：活動紹介・ビデオの放映
- 石川県立大学 上野裕介研究室：里山里海研究からの能登復興支援

奥能登マルシェ

- ひらみゆき農園：ブルーベリーのスイーツ・ドリンク販売
- へんざいもん食堂：地域産食材を使ったお弁当の販売 など
- とりとん：特産品を使用したお弁当の販売
- イカの駅 つくもーる：地域食材の紹介、おみやげ販売 など
- のとジン、松田行正：のどニク、のとジン紹介・販売
- 小澤善昭：米道楽匠/活動紹介・お米の販売
- 松田咲香：「能登っておき！」ポストカード展示・販売

2024.12.7 (土) 12:30-15:00
入場無料 ラポルトすず（フロア、スタジオ）
（珠洲市飯田町1-1-8）



塩の結晶でアクセサリ作り



マルシェの様子



仁愛女子高校の研究発表



ハートのタペストリーお披露目

●家 安祐美さん(2009年度マイスター修了)が 「アテ(能登ヒバ)を使ったスワッグ(かけ飾り)を作ろう」を企画

森林組合の方に用意していただいたアテの枝葉をベースに、季節の草花などを一緒に合わせて好みの飾りに仕立てるものです。素材を束ねるのは家さん手作りの柿渋や漆染めから作ったりボンを用意しました。家さんは卒業研究で「地域に根ざす手仕事の工夫による価値創出～穴水町諸橋地区における「能登草木の染め」の商品化～」に取り組みました。現在は奥能登元気プロジェクトに関わるなど精力的に活動されています。



●三輪 福さん(2017年度マイスター修了)が 「真菰(まこも)でお飾りを作ろう」を企画

舞踏家でもある三輪さんは卒業研究で「半島半都の暮らしの架け橋～梅林との出逢いから蓄熱式ストーブペチカ制作まで」に取り組みました。梅の栽培や製品づくりを行い、梅暦をつくって能登らしい生活について考えました。地域の植物を活用した取り組みを継続されています。今回は季節に合わせ、真菰を使ったお飾り制作を行い、会場には芳香が漂っていました。



●桶間 佳奈さん(2021年度マイスター修了)が「能登のハーブを使って マイ・フレグランスを作ろう」を企画

能登ヒバをはじめ数種類のアロマ素材をお持ちになり、その効能などを説明しながら、参加者に各自でブレンドを試してもらいます。桶間さんは、卒業研究で「アロマセラピーで用いる植物油の抽出-能登の植物資源の新たな活用を考える」と題して、施術で使用する精油などの開発に取り組みました。アロマセラピーで用いる植物油(キャリアオイル)はおもに海外産が使用されていることから、利用が有望なカヤの木の実が活用できないかと考えました。各地の事例や歴史を調べ、植物の現地採取から乾燥・精選などの取り扱い、搾油、抽出などに自分で取り組んだ経験が活かされています。



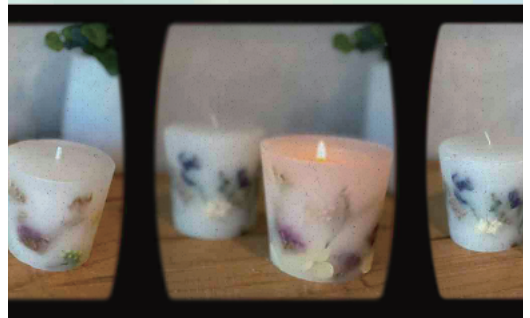
● 仁愛女子高等学校(福井県)の生徒によるワークショップ 「能登でできること・やりたいこと」

今年の受講生、古林有紀恵さんが所属する仁愛女子高校の生徒のみなさんが来場して、ランチ+お話し「能登でできること・やりたいこと」と「手作りキャンドルで愛をつなぐ」のふたつのワークショップを実施しました。仁愛女子高校では生徒有志が、能登を元気にしたいと「能登♥仁愛プロジェクト」の活動を行ってきました。飯田高校の生徒にアンケートを行って、意見交換を継続的に実施してきました。両校の生徒同士は、なかなか直接会うことができずにいたところ、里山里海学会の機会を活用して会場で交流の場を設けることになりました。会場に参加した金沢大学の学生やマイスター受講生なども加わって、ランチタイムを活用してトーク&ランチの企画を実施。各自が考えたアイデアを報告しあいました。

もうひとつはアロマキャンドル作成体験です。生徒たちは福井市森田のキャンドル専門店salon.5iveに協力してもらって、作り方を練習してきました。ワークショップでは参加者に作成方法を説明し、お話をしながらキャンドルづくりの体験を共有しました。



手作りキャンドルで愛をつなぐ



能登里山里海学会がラボルトすずで開催されます。そこで私たちが企画した手作りキャンドルのワークショップを行います。このイベントで能登の皆さんに笑顔になって欲しいと思っています。多くの人に参加してもらい、心温まる思い出を残して欲しいです。完熟フルーツの甘い香りのするキャンドルは家に飾ったり大切な人にプレゼントしたりできます。日頃伝えられていない感謝をこの機会に伝えてみませんか？

申し込みはこちらから
申し込みは11月20日で締め
切ります↓↓↓



参加募集要項

日時：2024年12月7日（土）13時～15時
場所：ラボルトすず 参加料：500円
定員：50名
〒927-1214 石川県珠洲市飯田町1丁目1-8
主催：福井仁愛高校能登プロジェクト
矢代万枝、村中比爾、伊藤優里亜 担当：古林有紀恵
お問い合わせ ☎ 0776-24-0493

⑥ 能登里山里海創業塾

興能信用金庫と共催し、中小企業診断士を講師に招き創業・起業のノウハウを体系的に学べる全5回の講義およびワークショップを実施しました。内容は経営、財務、販路開拓、人材育成、およびビジネスワークショップ(ケーススタディ)で、2017年より開催し今年度で第8期目となります。修了者は珠洲市・輪島市・能登町・穴水町により、経済産業省の産業競争力強化法が定める「特定創業支援事業」の認定資格を得られ、会社設立登記の登録免許税の軽減や創業関連保証の特例(一定の無担保、保証人不要)などの優遇措置が受けられます。今年度は11名が認定されました。



能登学舎は、奥能登地域における高等教育・研究の重要な拠点として、金沢大学の学生がフィールド・スタディを通じて現地の理解を深め能登との関係を築く機能を果たしています。また、自治体や地元の住民・団体から期待されている初等・中等教育に対する積極的な支援にも継続して取り組んでいます。

今年度においても、金沢大学および能登学舎が有する専門知識や能登里山里海SDGsマイスタープログラム修了生および受講生とのネットワークを活かし、大学生のフィールドワーク実施や、高校生の「総合的な探究の時間」に伴走するとともに大学生との交流機会を創出しました。

2-1 飯田高等学校(石川県珠洲市)における 探究的学習(通称:ゆめかなプロジェクト)への協力

石川県立 飯田高等学校では「総合的な探究の時間」の教科を2016年から「ゆめかな」(夢をかなえるんだ!の略)と命名し、生徒が各自のテーマを持って活動し、課題発見力、情報活用力、コミュニケーション力等を養っています。共通のテーマを持った数名のグループに分かれて、スポーツ、科学、里山里海、地域の祭り、ものづくり、防災から料理、お菓子、音楽など、多種多様かつユニークなテーマで探究活動を行います。能登学舎では毎年、珠洲市や地域の方々とともに授業へ参加し、各教室を回って生徒たちとコミュニケーションを取りながら学習をサポートしています。毎年度のとりまとめ時期に行われる活動成果発表会にも参加して意見交換などを行っています。



2-2 金沢大学生の能登でのフィールドワーク

① 能登の里山里海の生業学習

8月10日、24日、金沢大学の学生と能登里山里海SDGsマイスタープログラム受講者が中能登町、七尾市にて「能登の里山里海の生業」を学習しました。中能登町春木地区では、トキの生態とそれを支える農地開発の現状に触れ、放鳥に向けて特別な農地環境が必要なものの収穫量減少という課題が同時に発生するため、環境を整えトキを迎えるだけでなく循環を考えた未来思考が必要となることを理解しました。また七尾市では、和倉温泉と市のリーダーシップが街づくりに果たす役割を学び、震災復興と未来のビジョンについて現実的な取り組みを共有しました。



中能登町春木地区にて



七尾市和倉温泉にて

②「能登瓦・古材再生プロジェクト」への参加

8月24日、能登里山里海SDGsマイスタープログラム受講生が坂茂建築設計による「能登瓦・古材再生プロジェクト」に参加しました。能登産の土に黒光りした釉薬が風土を体現する「能登瓦」は、能登半島地震により家屋が倒壊し或いはブルーシートに覆われた痛ましい屋根の姿となりました。これらの屋根から瓦を下ろし、未来へと繋げる本プロジェクトは、特別な技術を持たない受講生にも成功体験を与え、関係人口の受入れなど様々な可能性や希望を見出したフィールドワークとなりました。



③ 能登学舎におけるボランティア・カフェの実施支援

6月6日～7日、10月26日～27日、11月29日～12月1日、金沢大学人間社会研究域 人文学系 中島弘二教授が所属学生5人と能登学舎に「ほん和かふえ能登学舎店」を開設し、併設している仮設住宅の入居者、周辺地区被災住民の交流拠点を創出しました。マッサージボランティアの提供、および演奏会も開催されました。近隣地区のみならず珠州市内の他の地区の仮設住宅からも足を運んでいただくなど、大学生、奥能登コミュニティ双方にとって数少ない交流機会となりました。



演奏会



カフェ(写真の一部を加工しています)

3-1 「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興 ～SATOYAMA イニシアティブの推進」研修の受け入れ

2025年1月31日、日本の政府開発援助(ODA)による研修のため来日したカンボジア、ラオス、アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、およびエクアドルの5か国・7名の行政官、研究者の方々が能登学舎を訪れました。JICA(独立行政法人 国際協力機構)が実施する研修「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興～SATOYAMA イニシアティブの推進」の実施を受託した一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま様より依頼を受け、能登学舎・中村と山下が校舎を案内後、「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」による人材育成について講義を行いました。質疑では、事業予算、奨学金、受講者の属性、および能登地方の植生・管理などについて活発な議論がなされました。



3-2 国際連合大学の視察受け入れ

2025年3月19日、国連大学シャオメン副学長、国連気候変動枠組条約(UNFCCC:United Nations Framework Convention on Climate Change)ヨセフ事務局長、ドイツ連邦共和国美術展示館クラウド館長、国連大学サステナビリティ高等研究所山口所長、同研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット渡辺所長、富田氏、小山氏、および公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES:Institute for Global Environmental Strategies)武内先生、齊藤先生の9名の視察を受け入れ、震災・豪雨の影響や地域が抱える課題、および地域の取り組みとして能登里山里海SDGsマイスタープログラムにおけるアートと復興を組み合わせた活動について説明しました。また、併せて今後取り組んでいく予定のECO-DRRの視点で森林を再生していく方向性などについても、説明をおこないました。



3-3 神戸大学附属中等教育学校の視察受け入れ(復興・減災学習)

神戸大学附属中等教育学校の生徒13名(中学生7名、高校生6名)、教員1名が能登学舎を訪問し、令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チーム青木賢人(地域創造学系)および中島弘二(人文学系)によるオンライン講義を受けるとともに、珠洲市内各地の研修を行いました。講義では、青木准教授からは令和6年能登半島地震や群発地震のメカニズムやその特徴、甚大な被害をもたらした要因などについて解説をしました。中島教授からは災害がもたらした地域社会や人間関係などへの影響、その後の生活の変化に応じた支援の考え方やコミュニティの再建などについて解説をしました。また珠洲市内を案内し、被害状況やその後の変化などについて説明しました。生徒たちは避難所運営にあたった消防団の方からも話を伺い、多くの質問が出され、また意見交換を行いました。



3-4 地域のNPO 法人による里山里海保全活動との協働

珠洲市で里山里海保全活動をしているNPO法人「能登半島おらっちゃんの里山里海」とは、能登学舎を活用した協働活動を展開しています。共催でイベントを企画、実施するほか、能登里山里海SDGsマイスタープログラム講義ではNPO法人が保全活動を行っているフィールドでの実習や、地引き網の体験の指導をしていただくなど、能登の里山里海の保全活動にともに取り組んでいます。



4-1 日本緑化工学会現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生」の企画・参加

2025年1月12日～14日、日本緑化工学会の現地検討会が開催され、能登学舎スタッフが現地案内の一部を担当しました。現地検討会では能登半島で進められてきた取り組みや、地震や奥能登豪雨による影響を見学しました。

各地で進められてきたトキ生育環境整備モデル事業地での取り組み、地震や奥能登豪雨で発生した土砂移動や河川河道の変化、河口の生物相の変化等を視察。また、応急仮設住宅の設置箇所の検討や土地利用方法に関する議論を行いました。



輪島市町野地区のモデル事業地区



芝生のある公園に整備された珠洲市見附公園の木造住宅



緑化に使用する地域性種苗の確保に向けた意見交換

日本緑化工学会では、自然環境に配慮すべき地域を中心に地域性種苗(ある地域内から採取、育成した種苗)の活用を進めています。地域内に自然分布する植物を地域で生産し、地域の事業者が緑化工事等に使用することを目指した活動をめざし、能登における将来の可能性や方向性について検討しました。地域の農業法人や石川県奥能登農林総合事務所と、地震や豪雨に対する取り組みやトキの放鳥に向けた取り組み等を含めて意見交換を行いました。能登半島では復興に向け持続的な地域経済の構築に向けて今後も様々な取り組みが進められていくと考えられ、各地域の実情を把握しながら多様な主体と協働していきたいと考えています。(中村華子)

4-2 地域の特性に合わせ、地域の資材を活用するための連携活動



2025年2月15日～17日に特定非営利活動法人山の自然学クラブの現地講座が実施されました。能登学舎スタッフが中心となって企画しました。山の自然学クラブでは20年以上行ってきた、講座事業やインタープリター活動、指導員養成プログラムを活用し、能登半島においても現地講座(エクスカージョン・シンポジウム等)を連続的に企画・実施する予定です。地域の自然・資材と共生して発展してきた伝統産業や文化を大切に、現地の団体や教育者、関係機関などと協力しながら、自然を生かした地域振興をはかっていく契機・一助となるように「ジオパーク」登録に向けた取り組みや「自然公園地域の拡充」などの施策、取り組みを視野に入れて活動します。(中村華子)

業績・活動一覧

1 人材育成プログラム(リカレント教育)

◆ 能登里山里海SDGsマイスタープログラム

●第18期開講コース

期間・日数：2024年6月15日～2025年3月1日、うち18日間

設定コース：①実践探究型

到達目標：(1) 能登の里山里海およびSDGsに関する理解を深める
(2) 能登地域における課題を抽出し分析する
(3) 能登の課題解決に向けた実践や探究を行う

②知識習得型

到達目標：(1) 能登の里山里海およびSDGsに関する理解を深める
(2) 能登地域における課題を理解する
(3) 能登の課題解決に向けたアイデアや実践プランを考案・立案する

科目類型：(1) 里山里海概論・各論 (2) 持続可能な開発(SDGs)
(3) 能登地域の環境・社会・経済課題 (4) 災害からの復興施策
(5) アートを起点として思考し展開できる復興

応募者数：24名(全員知識習得型)

(居住地別) 石川県:11名(金沢市 6名、かほく市 1名、七尾市 1名、輪島市 1名、珠洲市 1名、能登町 1名)
京都府、東京都 :各3名
富山県、神奈川県 :各2名
福井県、長野県、岡山県:各1名

修了者数：21名(修了者率 87.5%)

認定資格：(1) 金沢大学 「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」
(2) 文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」

●マイスタープログラム修了生との協力活動、事業フォローアップ、その他連携

●第18期プログラム 講義「生業創出のケーススタディ」講師

JICA(独立行政法人国際協力機構)能登デスク	中谷 なほ(2010年度修了)
フードコーディネーター	瀬川 しのぶ(2017年度修了)
能登町定住促進協議会・移住コーディネーター	森 進之介(2018年度修了)
観光・環境・福祉マルチワーカー	高澤 千絵(2019年度修了)
珠洲市特定地域づくり事業協同組合	馬場 千遥(2019年度修了)
都市計画コンサルタント	須田 暁憲(2021年度修了)

●能登の里山里海ワークショップ&マルシェでのワーク開催、ブース出展

家 安祐美(2009年度修了)	: アテ(能登ヒバ)を使ったスワッグ(かけ飾り)作り
今井 誠(2017年度修了)	: NPO法人 能登里山里海マイスターネットワーク 活動紹介
三輪 福(2017年度修了)	: 真菰(まこも)での飾り作り
松田 咲香(2017年度修了)	: ポストカード展示・販売
松田 行正(2020年度修了)	: のトニック、のとジン(飲料)販売
桶間 佳奈(2021年度修了)	: 能登のハーブを使ったフレグランス作り
小澤 善昭(2023年度修了)	: “米道楽匠”活動の紹介、お米の販売
福井県仁愛女子高校	: ポスター発表「研究活動:能登でできること」、キャンドル手作り体験
石川県立大学 上野裕介研究室	: 里山里海研究からの能登復興支援 パネル展示
能登町情報発信拠点 イカの駅 つくモール	: 地域食材の紹介、土産品販売等
飲食店・販売 TORITO-N	: 特産品を使用した弁当販売

◆ 能登里山里海創業塾

共 催：興能信用金庫

科 目 数：5科目（開講日：2024年9月7日、10月5日、11月9日、12月21日、2025年1月25日）

内 容：経営、財務、販路開拓、人材育成、ビジネスワークショップ（ケーススタディ）

修了者数：11名

認定資格：経済産業省「特定創業支援事業」（認定自治体：珠洲市・輪島市・能登町・穴水町）

2 地域における初等中等教育支援・高等教育拠点

- 石川県立飯田高等学校 総合的な探究の時間「ゆめかなプロジェクト」学習支援（中村華子、山下修平）
- 神戸大学附属中等教育学校 視察受入

3 社会貢献活動

◆ 他団体・個人の事業・調査・研究・教育活動への協力

- 国際連合大学シャオメン副学長 視察受入（2025年3月18日、19日）
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）政府開発援助 課題別研修「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興～SATOYAMA イニシアティブの推進」講義（2025年1月31日 山下修平）
- 石川県 里山振興室「のと里山里海ガイド」養成講座 受講生募集協力（2024年12月23日）
- 一般社団法人 RainbowForest 金澤「山と出逢い、出逢いなおす in すず」林業人材育成研修 講義会場提供（2025年3月10日～5月16日）および講演会「森林生態系を育む林業に向けて」「能登の山林と伝統を活かした復興再建里山スギ板倉の家」協力（2025年3月19日）
- 能登半島復興応援ツアーガイド団体 リポート珠洲 ツアー参加者の視察受け入れ（2025年3月17日）

◆ 刊行物・機関誌等への取材協力・寄稿

石川県珠洲市広報誌「広報すず」 定期掲載（執筆）“能登学舎の窓から”

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 2024年 8月号 | マイスタープログラム2024年度生が入講しました（小林秀輝） |
| 10月号 | 能登学舎に着任しました（中村華子） |
| 12月号 | 能登の里山里海学会2024を開催します（中村華子） |
| 2025年 1月号 | 着任のご挨拶（山下修平） |
| 3月号 | 時には道草を -五感を使う「おさんぽ」（中村華子） |

4 その他

■学会委員・協議会委員等：

- 日本緑化工学会 理事、企画・事業部会長 中村華子
- 特定非営利活動法人山の自然学クラブ 副理事長 中村華子

能登未来社会SDGs研究部門

2024年度成果報告



■金沢大学能登学舎

〒927-1467 石川県珠洲市三崎町小泊33-7

■金沢大学珠洲サテライト

〒927-1215 石川県珠洲市上戸町北方1-9-2

すず市民交流センター



最新情報・詳細は
こちらから

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/endowed/>